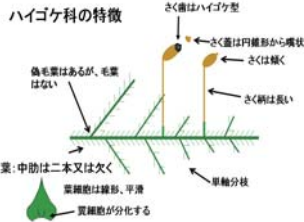


ハイゴケ科研究最先端



ハイゴケ新報筑波本社
茨城県つくば市天久保4丁目1番1号
電話(029)000-0000 0000-3035-0085
ハイゴケ新報筑波本社2009

ハイゴケ科とは？



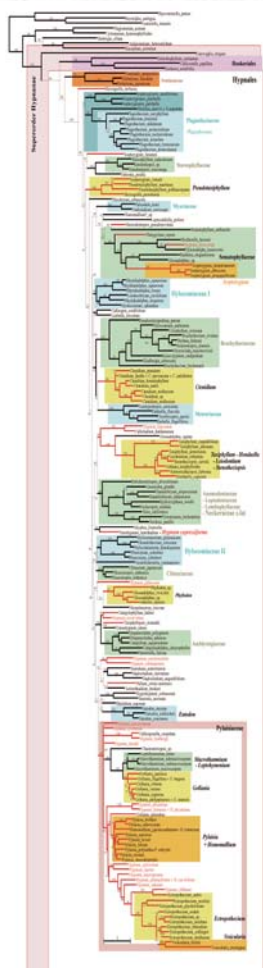
ハイゴケ科はコケ植物のスティゴケで代表される蘚綱(約100科10000種を含む)の1科。葉の短い二本の中肋、分化した翼細胞、発達した二列

の萌歯などが特徴。熱帯から極地まで広く分布する、コケ植物中最も大きな分類群の一つ。現在60以上の属、1000以上の種を含む。しかし、それらの系統関係は明らかではない。

コケ植物には分類学的検討が必要な分類群がまだ多く残されている。中でも、ハイゴケ科は最大の分類群の一つであり、系統的に異質なものの集まりと考えられており、その検討は緊急の課題である。

異質性の理由として、近縁な科の再検討の際、行き場のないものはハイゴケ科へ移されることが多かったこと、二本の中肋と平滑な葉細胞をもつ「新種や新属はまずハイゴケ科のもの」と疑われる傾向があることがあげられる。

とりあえずハイゴケ科？



系統樹の一例(葉緑体3遺伝子による)
赤の実線がハイゴケ科、赤字がハイゴケ属を示す

ハイゴケ科の系統関係の解明を目的とした葉緑体3遺伝子を用いた分子系統解析では、ハイゴケ目は単系統となるものの、その中の科間、属間の関係は明瞭ではなく、ハイゴケ科は多系統になるという結果が得られた。

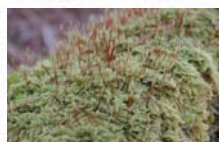
まだ答えの出ない分子系統解析

解説

分子系統解析とは DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列の比較によって、生物の系統関係を推定する方法。形態の情報に乏しい生物においては特に有効と考えられている。



エゾハイゴケ(岩上)



イトハイゴケ(倒木上)



ハイゴケ(岩上)



クシノハゴケモドキ(岩上)



アズマキニゴケ(樹幹上)



ヒメハイゴケ(倒木上)



クシノハゴケ(岩上)



ヒラハイゴケ(岩上)



シワラッコゴケ(岩上)



ダチョウゴケ(地上)
地球館1Fで実物展示中

多様なハイゴケ科
茎が羽状に分枝する扁平な植物体と長い萌歯をもつ傾いた葉を基本形とするが、さまざまに変形が見られる。葉の形や色もさまざまである。

サンプル求めて東西南北



ボルネオ島キナバル山

研究材料を得るために、国内外で調査を実施している。



チチブハイゴケ
石灰岩上に生える
日本固有種
日本館3Fで実物展示中



ハイビバゴケ
岩上や樹幹上に生える
世界に広く分布する
国内では日本海側の地域にかたよった分布をする
日本館2Fで実物展示中



研究者紹介

ひぐちまさのぶ
樋口正信

埼玉県1955生。植物研究部陸上植物研究グループ長。専門はコケ植物。ハイゴケ科の分類、ヒマラヤ、オセアニアのコケ植物相を研究。